

興福寺と浮嶋稻荷神社



しくみ

- 興福寺中金堂 558.17km - 浮嶋稻荷神社 - 興福寺五重塔 558.17km
- - 威光寺 558.17km

興福寺中金堂

藤原鎌足夫人の鏡大王が夫の病氣平癒を願い、鎌足発願の釈迦三尊像を本尊として、天智天皇 8 年 (669 年) 山背国山階 (現京都府京都市山科区) に創建した山階寺 (やましなでら) が当寺の起源である。壬申の乱のあった天武天皇元年 (672 年)、山階寺は藤原京に移り、地名の高市郡厩坂をとって厩坂寺 (うまやさかでら) と称した。和銅 3 年 (710 年) の平城遷都に際し、鎌足の子不比等は厩坂寺を平城京左京の現在地に移転し「興福寺」と名付けた。この 710 年が実質的な興福寺の創建年といえる。中金堂の建築は平城遷都後まもなく開始されたものと見られる。その後も、天皇や皇后、また藤原家によって堂塔が建てられ整備が進められた。不比等が没した養老 4 年 (720 年) には「造興福寺仏殿司」という役所が設けられ、元来、藤原氏の私寺である興福寺の造営は国家の手で進められるようになった。しかし、1046 年に近隣の火災が延焼し、焼失。それ以降、6 回も再建されてきたが、すべて焼失。江戸時代に仮再建されたものは、老朽化のため 2000 年に解体されたままになっていた。

興福寺の中金堂は、藤原不比等が中心となって 714 年に完成した。丈六の釈迦如来像、菩薩像 4 軀 (十一面観音二軀、薬王・薬上菩薩)、四天王像、2 組の弥勒浄土像が祀られ、藤原氏の氏寺らしい、とても華やかなものだった。

五重塔は天平 2 年 (730) 光明皇后の発願により建立された。東金堂は神亀 3 年 (726) 聖武天皇の建立。

奈良県奈良市登大路町 4 8



浮島稲荷神社

祭神は「宇迦之御魂命」「天熊之大人神（合祀神）」。

神池の大沼には大小の葦の島が風や流れに関係なく浮遊し、江戸時代には国の数 32 あり、その動きで吉凶を占っていたとされる。沼は白竜湖とも呼ばれ弁財天が祀られている。大円寺『朝日嶽縁起』（1505 年）によると、朝日岳の麓に御手洗の「大富沼」があると記されている。

白鳳 9 年（681）役の小角（役の証覚・役の行者）が弟子の覚道を連れて出羽路に来た折、大谷川（朝日町大谷）のほとりで梵字が記された板碑が流れくるのを見つけ、川をさかのぼり、60 余りの島が浮遊する神池大沼を見つけた。湖畔に浮島稲荷大明神を祀り、弟子覚道を別当（大行院）とし朝日岳修験が行なわれた。建久 4 年（1193）には寒河江荘地頭となった大江広元の進言により源頼朝の祈願所になり、その後も大江家、徳川家、最上家にも祈願所として崇敬された。国指定名勝。

山形県西村山郡朝日町大沼

備考 大行院最上家（宮司）系図の脇書に 730 年に「大沼社を南西の丘に移す」 記述がある。



威光寺

修験の三岳山南麓に建つ威光寺は、真言宗醍醐派修験道の開祖であり、世界遺産の京都・醍醐寺の開祖である理源大師聖宝が昌泰年間（898~901）に開創したと伝えられる古刹。三岳山の修験と理源大師の関係については不詳であるが、修験道が結びつける何かが存在したのでは。往時には大いに栄えたが、盛衰を繰り返したといわれる。下佐々木集落の山手に石垣を組んで建つ威光寺の風景は往時の隆盛を偲ばせる。

http://tempsera.at.webry.info/201511/article_67.html

京都府福知山市下佐々木 7 4 2



備考

浮島稲荷神社創建のしくみではないか。このしくみが浮島稲荷神社の初お目見えになる。730 年に「大沼社を南西の丘に移す」という記述があり、興福寺が中金堂と同距離に同じ 730 年に五重塔を作り、大沼浮島の気を引き寄せるしくみになっている。この時に大沼浮島は、弁財天（おそらく瀬織津姫）と切り離されて宇迦之御魂命の稲荷神社にすり替えられたのではないだろうか。6 年前の 724 年には、宮城に多賀城が造営され、いよいよ東北南部は制圧されている。681 年に役の小角が来てから 50 年後のこと。898~901 年に開かれた威光寺とのつながりは分からないが、菅原道真が活躍し左遷された頃のこと。大沼浮島の下流にあたる大谷地区に道真の側室一統が移り住んできた頃と重なる。

浮島稲荷神社の位置と歴史



■ 大朝日岳山頂 18.36km - 浮嶋稲荷神社 - 大沼出島 18.36km

蝦夷討伐と浮島稲荷神社の歴史

- 齊明 4 年 (658) 安倍比羅夫 日本海側の蝦夷を打つ ～660
- 白鳳 9 年 (680) 役の小角 大沼浮嶋稲荷神社草創
大谷川に流れてきた梵字の書かれた板碑を見つけて、上流に向かい大沼を見つけた
- 持統 10 年 (696) 大沼大行院系図 弘道脇書に 朝日権現堂再興するとある
- 文武天皇 3 年 (699) 天皇に謀叛を企んでいるという讒言を受け、役小角が大島へ流刑になる
伊勢神宮成立。ただし 5～7 世紀には存在していたとされる。
- 和銅元年 (708) 出羽に越後国出羽郡を新設 出羽柵 最上川より南の地域 朝日町 (朝日岳・大沼) は出羽郡
- 和銅 2 年 (709) 大沼大行院系図 (3 代) 弘道脇書に、朝日山箕輪において大宿を立つ (建てる) 極楽寺と号すとある
蝦夷反乱。
陸奥に巨勢麻呂将軍、出羽に佐伯石湯将軍を派遣。蝦夷を伐る。陸奥守上毛野小足死亡
- 和銅 3 年 (710) 平城京はじまる。京都伏見稲荷神社創建。興福寺創建。
- 和銅 4 年 (711) 稲荷神社総本宮の伏見稲荷大社創建。
- 和銅 5 年 (712) 越後国から出羽国分離 最上・置賜二郡を出羽国 山形県全体が出羽国に
『古事記』 献上
- 養老元年 (717) 日本最古の厄除霊場 松尾寺建立。
- 養老 4 年 (720) 陸奥守 上毛野広人 9 月出羽軍の蝦夷の反乱により殺害される
陸奥に多治比将軍 出羽に阿部駿河将軍を派遣
陸奥按察使の管轄範囲に出羽国も含まれる
『日本書紀』成立。
- 養老 6 年 (722) 蝦夷鎮撫の拠点「陸奥鎮所」を多賀城付近に置いた。多賀城の前身とされる。
- 神亀元年 (724) 陸奥守 大野東人 多賀城を築城 本格的な陸奥支配が始まる
3 月蝦夷の反乱に藤原宇合が征夷持説大將軍として派遣。騒ぎは出羽にまで及ぶ。
- 神亀 5 年 (728) 大沼大行院系図の (4 代) ぎ道の脇書に 朝日山十谷原に二之宿を立つ。とある。
- 天平 2 年 (730) ” 草堂だった大沼社を神池の坤丘に移した。とある。興福寺五重塔を建立する。
- 天平 9 年 (737) 宮城県丸森の宗叡神院が、聖武天皇の勅願により蝦夷撫育のため開基された
- 天平 18 年 (746) 慈恩寺創建 聖武天皇の命により行基が地を選び年婆羅門僧正が開基
- 持統 10 年 (756) 朝日権現堂再興。このあたりに八幡社、大黒堂。白滝に弁財天を建立

天平宝字 7 年 (763) 大沼大行院 6 代雲道脇書に、朝日峯中の法則を相承したと記されている
宝亀 5 年 (774) 出羽国志波村の蝦夷が制圧される
宝亀 12 年 (781) 桓武天皇即位 ~806 年まで 二つの大きな政策は、首都造営と征夷 (北方蝦夷の討伐)
延暦 13 年 (794) 平安京はじまり
延暦 20 年 (801) 坂上田村麻呂が蝦夷討伐 翌年アテルイ大阪で斬首
延暦 21 年 (802) 大和朝廷が蝦夷を併合。日本を大和と呼ぶようになる。

備考

730 年。大朝日岳山頂から大沼の中心ポイント「出島」の同距離 18.36km の高台に、浮嶋稲荷神社は移された。同距離にすれば大朝日岳の気を引くしくみとなる。大沼は鎌倉時代に千年封じされた朝日嶽修験の拠点であったので当然のしくみといえる。

歴史を見ると、出羽の蝦夷討伐とともに大沼や朝日岳は朝廷側のものにされたことがうかがえる。山形内陸部は、深い山で囲まれ自然の要塞になっている。658 年から安倍比羅夫が日本海側から攻めてきて、まず庄内の蝦夷を討伐したのだろう。しかし、そこから内陸に入るためには山に囲まれた最上川 (最上峽) を開かなければならない。きっと時間をかけ、じわじわと内陸に攻めてきたのだ。そして 680 年に役の小角が大沼を開いた。この時に出羽全体は朝廷側のものとなったのだろう。708 年には出羽郡が作られ、712 年には『古事記』、720 年に『日本書紀』が完成している。まるで出羽の朝日岳・大沼の攻略を待って日本の歴史が書き換えられたように感じる。

ちなみに、100 年前には聖徳太子の子とされる丸子 (山寺) や親戚の蜂子 (羽黒山) が山形に逃げてきている。縄文人と親しかった出雲系なのかもしれない。詳しくは、別頁「山寺立石寺と宮内熊野大社」を。

さて、役小角は大沼の下流にあたる大谷川のほとりで梵字の書かれた板碑を見つけて、上流へ登り大沼を見つけたので、すでに大沼は異教徒の信仰地だったことがうかがえる。サイト「光り輝く未来はそこに」の岩本氏によると、支配するのに架空のヒーローをでっち上げ、庶民を依存・群れ化させ、自分の魂で生きられなくさせたらしい。きっと朝廷に逆らう役小角も、朝廷側が作ったヒーローなのではないか。宗教は支配ツールである。

『朝日町史』でも触れているが、浮嶋稲荷神社は 680 年の創建時から稲荷神を祀ったのだろうか。そうであれば、総本宮の伏見稲荷大社の 711 年創建よりも歴史は古くなる。別当大行院の系図には稲荷とは書かずに「大沼社を南西の丘に移す (730 年)」とある。祭祀族の秦一族が本格的に大沼を支配するようになったのが 730 年からということなのだろうか。いずれにせよ、縄文「日高見国」の一大聖地である大沼の大地神 (瀬織津姫・弁財天・自然霊・竜神) の放つ気を封印し、別の蛇神 (宇賀神) を祀って庶民に信仰させ朝廷側の力にしたのだろう。

※この「浮嶋稲荷神社の歴史と位置」は、2018.10 月に補足しました。

鳴無神社（鎌倉時代）



■ 興福寺中金堂 267.47km - 鳴無神社 - 威光寺 267.47km

鳴無神社（おとなしじんじゃ）

祭神は一言主命。本殿・幣殿・拝殿は国の重要文化財に指定されている。参道が海に向かって延びており、「土佐の宮島」とも称される。社伝によれば、葛城山に居た一言主命と雄略天皇との間に争いがあり、一言主命は船出して逃れた。雄略天皇 4 年の大晦日にこの地に流れ着き、神社を造営したのが始まりであるとされる。実際は、鎌倉時代の建長 3 年（1251 年）に創建されたようである。一言主命は土佐国一宮の土佐神社と同じ祭神であるが、土佐神社は当神社の別宮であったとされている。江戸時代に入り土佐藩 2 代藩主の山内忠義の命により社殿が造営され、境内が整備された。

高知県須崎市浦ノ内東分

備考

十字架封印型しくみ。鎌倉時代に北条側が浮島稻荷神社を攻略するために、奈良時代のこのしくみを利用してしくんだのでは。この頃、北条時頼が執権となり（1246～1256）朝日嶽信仰が千年封じにされている。鎌倉時代編をご参考ください。